

企業等の森林づくり交流会を開催しました!

9月14日(火)の午後、京都市のキャンパスプラザ京都において「企業等の森林づくり交流会」を開催しました。

今回の交流会は、近畿中国森林管理局、滋賀県、京都府、京都モデルフォレスト協会の共催で開催したもので、滋賀県内や京都府内で森林づくり活動を実施若しくは実施を検討している約30の企業や団体の担当者60名の参加をいただき森林づくりの情報交換を実施しました。

冒頭に京都府の今西農林水産部長のあいさつの後、キリンビール滋賀工場と村田製作所の事例報告、その後、7グループに分かれて活動に至った経緯や活動状況、活動に当たって工夫していることや課題などの情報交換を行いました。

最後に近畿中国森林管理局の野口計画部長のあいさつで終了しましたが、参加企業等からは、「参考になった」「また実施して欲しい」などの声をいただき、有意義な交流会となりました。

今回の交流会を契機として、今後の活動の充実や参加者の拡大、新たな企業等の活動参画に発展し、琵琶湖・淀川流域をはじめとする地域において森林整備活動が広がることを期待しております。

なお、各グループ交流会の概要は別添のとおりです。

「企業等の森林づくり交流会」の開催状況



開会挨拶（京都府農林水産部長）



事例報告（キリンビール滋賀工場）



事例報告（村田製作所）



グループ討議



閉会挨拶（近畿中国森林管理局計画部長）

別添

グループ交流会報告書

第1グループ交流会報告書

(参加者)

京都銀行（永安）、積水化学工業（福井）、三井物産フォレスト（吉田）、
ブリジストン（里村）、京都府（川戸）、滋賀県（中川）

(意見等)

「B・フォレスト エコピアの森」プロジェクトが2010年から国土緑水さんの助成を受けてスタートした。エコピアの売り上げの一部を森林づくりに充当している。従業員の巻き込みが課題となっている。（ブリジストン）

広報部が中心となって森林保全に関わっている。京都府のモデルフォレストの取り組みが始まってから、当社の取り組みも活発化した。3年前から、嵐山の社有地で宮脇先生の指導により植林活動を行った。最近では、我が社が、「日本の森を守る地方銀有志の会」設立の音頭を取った。平成21年12月4日に「日本の森を守る京都サミット」を開催し、全国から64行が集まった。ただ、当社は現時点では独自のフィールドはなく、三井物産社有林での五山の送り火、鞍馬の火祭に必要な薪の確保・育成など、協会が行う体験行事に積極的に参加している。（京銀）

京都府の企業の森では、17団体がボランティアの派遣、11団体がボランティアと資金、1団体が資金だけを提供している。森林整備の場所は、会社、個人、生森など様々であるが、なるべく個人の所有地に限定されることはないようにしている。（京都府）

全国に190haある社有林のうち、19haで京都モデルフォレストと協定を締結している。

企業が私有林で森林整備に関わる場合、手入れが行われていない森林であることを所有者が気にしないように配慮する必要がある。（三井物産）

専門家がいないと、社員が森づくりを行うことは難しい。

企業としては、森林整備に関する具体的提案を行政側からいただきたい。（積水化学）

森林づくりの取り組みが始まったきっかけは、栃木工場で火災が発生し、周辺住民に迷惑をおかけしたこと。住民との関係改善のため、栃木で森林づくりの取り組みが始まった。

「子どもエコ総合学習」として、森林組合の職員を小学校に派遣し講義を行ってもらい、子どもを通して親、地域住民に森の大切さを普及する取り組みを行っている。

（ブリジストン）

子ども自然塾に2008年から取り組む。各工場単位ではなく、関西グループ共同で取り組んでいる。私と各工場の総務担当が打合せを行い、プログラムを企画している。

企業が森林づくりを行うためには、行政が橋渡しを行い、企業と所有者をつなげることがとても重要である。(積水化学)

川や海は物理的に関わりにくいですが、森林は実際に社員が入ることができるので、森林づくりには取り組みやすい。(積水化学)

地球温暖化やゴミ分別などの問題を誤解している人が多いので、森林で実際に自然に触れる経験は重要。(三井物産)

普通の社員は土日に休みたいと考えており、社会的にゆとりがないと森林づくりに参加する社員の数は増えない。

森林作り活動に参加する社員は毎回同じ人たち。プログラムの内容を変えてもなかなか集まらない。(積水化学)

株主通信で参加者を募集すると、全国から人が集まった。会社の社員の数(母集団)が多いことは重要。関心が高い人が集まりやすい。(三井物産)

このように株主を呼ぶという意見が採用される会社の風土が我が社にはない。うらやましい。

企業が活動を継続するために行政がすべきこととして、定性・定量の評価を行政が企業の森づくりに与えるべき。参加人数、活動頻度など評価指標を行政は考えるべき。小冊子で紹介してもすぐに忘れ去られるのがオチ。

生物多様性保全の認証制度を行政は作れないか。(積水化学)

JHEP認証は、財団法人 日本生態系協会が2008年12月に創設した認証制度で、我が社は認証を取得した。全国では、京都の清滝山林組合だけ。(三井物産)

第2グループ交流会報告書

(参加者)

京都銀行（前野）、三井物産フォレスト（西尾）、三洋化成工業（山田）、
村田製作所（西村）、ダイキン工業（藤井）、積水樹脂（宮原）、京都大学（清水）、
森林管理局（白淵）、滋賀県（清水）

(意見等)

◇体験活動のフィールドで問題になる点

- ・1番の問題はトイレである。

活動に継続性を持たせるためには、会社から1時間以内であったり、トイレが整備されていたりと場所選定が大事である。

- ・社内でイベントの告知をして、まず聞かれることは、トイレがあるかということ。
- ・テントのような簡易トイレで行っているが、抵抗がある。

◇体験活動参加者確保のための工夫

- ・イベントを多くすることを重視している。

木を切る活動だけでなく、みんなが楽しめるイベントを用意し、活動に参加する人を定着させることがまずは大切。10:00~12:00に森林整備活動を行い、午後は、バーベキューなどのイベントを実施している。

お昼をまたいで活動を行うときは、お弁当を支給しているが、地元の協力を得て、お弁当を作ってもらったり、バーベキューの準備をしてもらったりと地元との交流があり、こうした関係性を築くことは大切。

他にも、農家組合とともにサツマイモを植え付けたりしている。

イベント経費は年間100万円弱である。

◇社内での呼びかけ・人集め

- ・事務局だけでは、人手が足りないので、社内からボランティアスタッフを募集し、5人程度が手を挙げてくれた。
- ・社内で森づくりサポーターを募集し、今後、その人たちとの連携を図りたい。
- ・連続して参加する人は、活動が好きな方なので、大事にし、いずれ、自発的な活動にしていくことが大事。
- ・何回も参加してくれる人には、専用のヘルメットを用意するなど、参加促進を図っている。
- ・社内メール、社内ポスターでの呼びかけは効果がある。社内報、ホームページの活用も必要。
- ・工場長など、管理職の人たちを連れて行くことも大事。
- ・事務局も含めて、みんなが楽しむことが大切である。

◇活動を始めるにあたっての準備

- ・事務局自らが、京都府が行っている森林ボランティア研修を受け、指導に当たっている。また、活動の参加者からもこの研修を受講してもらいリーダーを養成している。
- ・滋賀県でも、ボランティアの人たちを対象にした講習会やまた、10月の月間に、各地域で、間伐などの体験ができるイベントを実施している。

◇体験活動実施上の留意点

- ・傷害保険に入り、参加者には、保険内容を告知している。
- ・ハチの被害などの万が一の場合に備え、一番近い病院を把握し、また、参加者の年齢と血液型は把握している。
- ・緊急車両、無線を配備し、薬等を用意している。
- ・活動の初期は、府から指導に来てもらった。
- ・間伐などの体験フィールドは、斜面のきつくないところを選んでいる。
- ・一斉に山に入る人数は、30～40名程度としている。それ以上は危険。

◇活動の多様性、メリット

- ・木の皮を剥いて、アクセサリなどをかけるラックなどが作れる。木の皮を剥く体験は新鮮。
- ・細い木であっても、切り倒す瞬間は、感動する。
- ・森林セラピーと言われるように、木の香りを体験したりすることは、社員にとっていい体験となる。
- ・間伐した木を使って歩道補修も、社員でできる活動。
- ・地元集落を歩くだけでも新たな発見がある。
- ・職務では、顔を合わす機会のない社員が、ボランティア活動を通じて、あらたな人のつながりが出来る。

◇その他

- ・損保ジャパンのCSR：社員一人一人からの募金により環境財団を作り、学生を助成。NPO等でインターンシップにより働く学生の時給を財団が負担。

第3グループ交流会報告書

(参加者)

グンゼ(奥村)、京セラ(桑山)、コカ・コーラ(玉置)、三井物産フォレスト(巾)、
麒麟ビール(畝)、村田製作所(細見)、森林管理局(竹井)、京都府(松本)

(意見等)

<活動実施企業の活動実施状況>

※村田製作所と麒麟ビールは、事例報告をしたので省略

- ・三井物産フォレスト：社有林を利用して本社社員のボランティアや株主向け行事等を受入している。内容は、間伐体験や自然観察会など。
- ・コカコーラ：会社の方針として、工場のある県全てで企業の森を設定。年2回(春と秋)、森林体験の行事を行っているが、特定の人に偏る傾向があり、人集めが難しい。マンネリ化しない工夫が必要なので、ICCなど海辺でのクリーン活動や他の活動と組み合わせて実施したりもしている。
対象は、お得意さん等であるため、経費は自社持ち。地元で協力をお願いし(10年間で800万の事業経費を前払い)、森林組合による間伐等を実施している。
- ・グンゼ：京都銀行頭取から度々進められ、モデルフォレストに参加。具体的な活動は、現在検討中。社員のボランティア活動で、会社の販促費としては安上がりになると考えている。

<質疑等>

・今後参入を検討しているが、地元の協力に対しお礼は払っているか？(京セラ) ← 支払っている(村田、コカコーラ)

・村田製作所の事例報告の際、チェーンソーの導入の話があったが、どんな講習会を考えているのか？(グンゼ) ← 「森のマイスター」を希望する者に森林組合の人から取扱いを習う予定(村田) ← 確か安全講習を受講する必要があるはず。確認した方がよいのでは(三井物産)。チェーンソーを使えば保険がきかないと聞いた。それも確認した方がよいのでは。(コカコーラ) ← 良い話を聞いた。確認してみる。(村田)

・保険にはどのようなものに入っているか？(グンゼ) ← 一番安い掛け捨てのボランティア保険を都度欠けている。(村田、コカコーラ)

・看板の経費はどのくらいか？(京セラ) ← ピンキリ。数万円から百万円くらいまである。(京都府) ← 法人の森では、企業とボランティア団体が組んで、手作りで作った例もあり安くする方法はあるはず。(局)

・ コカコーラやキリンビールのように本業と関係している場合は良いが、京セラでは本業との関連を説明しにくい。上司の説得資料作成に苦慮している（京セラ）←村田も本業との関係を説明をしにくいのは同じだが、「従業員の満足度の向上」を切り口を取組を初めており、結果的に会社もCSRの一環として認めてくれている。（村田）
←労働組合からの働きかけもあれば会社も動くのでは？

・ 活動地に竹林があるが、伐採後の処理に苦慮している。←京都府の職員（技術者）に良い案があると思うので聞いてみればよい（京都府）←侵入竹の整備などは課題になっているが、その需要先がなく困っているのが現状。各府県とも需要先の掘り起こし等試行錯誤しているのでは。（局）

<行政への要望>

・ 間伐材の利用ができるよう活用方法（ペレット等）、インフラ対策を講じて欲しい。（村田）

第4グループ交流会報告書

(参加者)

三共精機（石川）、京セラ（小山）、トヨタ紡績滋賀（吉田）、
村田製作所（中田）、森林管理局（池田）、モデルフォレスト協会（槇野）

(意見等)

○企業が森林づくりに参画するに当たって

- ・トップからの意向による場合と、下からの積み上げによる場合がある。
- ・下からの積み上げの場合、中間管理職等への説明から作業が膨大なものとなる。
- ・企業の組織が大きくなるほど、調整に手間取りなかなか決まらない。（京セラ）
- ・社長自らが進める場合でも、職員や取引先等へ理解を得るには、趣旨の説明等が必要となる。（三共精機）
- ・担当部局が総務（人事）部局か、環境（CSR）部局かで調整が必要であった。

○森林づくりボランティアの確保について

- ・社内で、業務として実施する者とボランティアで参画する者とが存在し、後めたさを感じることもある。
- ・社内で、福利事業（ボーリング大会）を計画しても、参加者が集まらない。
- ・ボランティアの募集については、バーベキュー、工作教室、周辺観光等の企画を付けるなどの工夫をしている。
- ・こまめに、職員に声掛けをすることが必要。
- ・ボランティアに対する事業の費用負担にも工夫が要る。（現地までの足は、社用車等を活用し、イベント費用は個人負担（全額or一部）など）
- ・社員の参加を伸ばすには、トップ（社長等）の参加が弾みとなり、参加者の励みにもなる。
- ・女性の参加には、トイレ、着替え場所が必要。
- ・一度でも参加してもらえると、理解が得やすい。

○森づくり事業費用等について

- ・社員（ボランティア）の参加に伴う経費は、多くないが、現地の作業基盤整備（作業道整備、周辺地の伐採、看板設置等）に多額の費用がかかる。
- ・回数を重ねて行くと、ノコギリ等の備品も増え、運搬や収納スペースの確保が大変になってくる。

○府県の関与について

- ・滋賀県では、企業と森林組合との協定で県の関与が薄い。
- ・京都府では、協会、知事等も参加した協定となりよかった。
- ・事業開始後、担当者が変わったりすると関与が少なくなっている。（村田製作所）

○事業実施後の状況について

- ・企業としても、社会貢献をする職員を育てることは必要なことである。
- ・取引先企業との交流はもちろん、地元の人々や関係機関（大学）との交流等に結びつけられたのが良かった。（三共精機）
- ・実施に当たっては、マスコミ、会議所等へも情報を入れている。
- ・地元紙が取り上げてくれることにより、社員の励みになっている。
- ・看板設置や除幕式を行うことでも、地元との結びつきが増える。

○今後の課題について

- ・参加者が増えてくると、チーム分けすることとなり、ボランティアリーダーの養成が必要となる。
- ・リーダー養成講座にも出席するが、後が続かない。
- ・リーダー養成を通じて、社内にボランティア組織を作りたい。（業務としての仕事から離したい。）
- ・慣れによる、不注意事故防止のためにも、専門家からの声掛けがほしい。
- ・府の担当者又は専門家の派遣が考えられないか。（多少の経費負担は検討する。）
- ・効率を良くするため、大型機械（運搬機・チェーンソー等の分割機など）共同利用方法が考えられないか。
- ・間伐材の活用方法が考えられないか。（周辺に集めるだけでは、ボランティアの志気が落ちる。）（間伐材利用製品のブランド化も目指しては？）

L

第5グループ交流会報告書

(参加者)

平和堂（西塚）、三共精機（下村）、滋賀県中小企業家同友会（坂田）、
三洋電機（棚橋）、森林管理局（柴田）、京都府（朝田）

(意見等)

<活動実施企業の活動実施状況>

○三共精機：台風跡地に植樹し、その後下刈、間伐を実施。（京都府南丹市美山）

- ・ 切削工具を製作している企業であり、レアメタルのリサイクル収入を森づくりにあてている。以前は顧客に利益を還元していたが、顧客の同意を得てモデルフォレスト活動に投資している。年3～4回の活動報告を顧客に配布。
- ・ 毎回30～100人参加。取引先や女性・家族も参加し、午前中森林整備活動した後にバーベキューなどを行っている。
- ・ 子供が参加するときは活動場所を分けている。
- ・ 参加者はほぼ固定。新規参加者を取り込むことが課題。
- ・ スタッフは2名+手伝い4人。
- ・ 資金提供 30～40万円（地元森林組合に提供）

○平和堂：植樹、看板設置し、現在は下刈、間伐を実施。今後は遊歩道整備も予定。
（京都府和束町）

- ・ 年2回活動（平日）。京都・大阪の店舗従業員（パートさん含む）50～60人が参加。メンバーは固定していない。
- ・ 近くに公園、東屋、バーベキュー施設がある。
- ・ 福井県でも同様の活動をしている。今後は岐阜でも行う予定。京都府の活動は3年目。
- ・ 福井ではシイタケの菌打ち体験も行った。→地元の協力が必要。
- ・ 資金提供は事前作業や下刈などの必要経費。

○三洋電機：台風跡地に植樹し、下刈、クマよけテープ設置（群馬）、つる刈りを実施。（京都府南丹市美山町）

- ・ 年1回、1泊2日（金・土）の活動で、近くの施設に宿泊。
- ・ 労働組合と会社側で約40人参加。金曜日はボランティア休暇が取れ、参加費4,000円。公共交通機関は旅費が支給される。
- ・ 会社にボランティア推進委員会があり、東西で分かれて全国から参加がある。（東日本は群馬で5年前から活動。OBも参加。）
- ・ 参加者の3分の1はリピーター。
- ・ 地元貢献として、活動地以外の場所にアジサイを植栽。

○中小企業家同友会

- ・ 30社に1口1万円で出資を募り、今後5年間森林整備活動する予定がある。
- ・ メンバーには工務店、大工、家具店などが参加し、木材を使う立場から地域に密

着して森づくりを行う。

<けが対策について> (いずれの企業も今まで大きな事故なし)

○三共精機

- ・ 団体保険(ボランティアもしくはレクレーション保険)を使用。手続きが簡単。
- ・ 夏場は水分を取る。無理しない。
- ・ 作業しないスタッフが見回りする。
- ・ リーダー研修を3人受講。

○平和堂

- ・ 下刈は草刈り機を使うこともあるが、保険がきかない。
- ・ 間伐はグループに1人森林組合がついて作業。(手ノコ使用、間伐対象木直径15~20cm)

<行政への要望>

- ・ モデルフォレスト活動を継続して行くには、森林の整備と利用の専門家(NPOなど)が必要になる。国策で養成するべきでは？
- ・ 森林は国の財産である。国策として、森林整備をもっと進めていくべき。企業の森づくりは啓蒙活動に過ぎず、本当の森林保全にはならない。
- ・ 農業とは異なり、林業は収穫までが長いので2世代がかりとなり、持続しにくい。
- ・ 森林を守るには、外国人を連れてきて、地域の起爆剤にしてはどうか。里山を地域の財産として守っていくべきではないか。
- ・ 日本で木材を使えないなら、海外に輸出することも行政で検討してはどうか。

<その他意見など>

- ・ モデルフォレストの活動として、下刈は参加者に不評である。間伐作業はきついが好評である。
- ・ モデルフォレスト活動は楽しみがないと続かない。また、他の団体の取組が分かると参考になる。

第6グループ交流会報告書

(参加者)

モリカワ商事（木下）、オムロン（荒木）、サントリーホールディングス（岩崎）、服部モータース（村田）、滋賀県中小企業家同友会（竹林）、京都府山城広域振興局（池田）、京都府京都林務事務所（上萩）、京都森林管理事務所（高山）

(意見等)

<活動実施企業の活動実施状況>

・モリカワ商事では、社の創立60周年記念事業として、南丹市美山町江和地区で京都モデルフォレスト協会と協定を締結し、10年間の協定期間において、森林整備を実施中。直ぐに本格的な活動は難しく、時間、コスト、参加人数などの課題がある。

当社では、ガソリンスタンド等に設置してある飲料自動販売機の売り上げの一部を京都モデルフォレスト協会へ寄付する仕組みを行った。今後、1社で実施していくのは困難になってくることから、複数の企業が参加できる形は出来ないか検討。（モリカワ商事）

・サントリーでは、天王山を皮切りに森林整備に取り組んできたところであり、現在は、長岡京市西山森林整備推進協議会への参画や南山城地域においても取り組んでいるところである。飲料メーカーであることから、大量の地下水を使用していることもあり、これに見合った水源林の整備を行っていく方針である。全国では7,000haの水源地整備を目標にしている。

OBの参加が多い。そこで、若手社員の研修メニューに組み込んでもらえるよう働きかけたが、カリキュラムがいっぱいで現在のところ組み込むことが出来ていない。引き続き働きかけていく。一般的には、森林の重要性についての理解は進みつつあると認識している。（サントリー）

・オムロンは、平成22年度4月に、京都モデルフォレスト協会と協定を締結し、長刀坂国有林において森林整備活動を始めたところである。

会社と労働組合の共同参加で実施している。参加者の中心は50歳以上であり、若手社員等の参加が少ないことから、参加者を増やす方策が必要と考えている。（オムロン）

・服部モータースは、平成21年5月に、琵琶湖森林づくりパートナーとして、近畿環境保全（株）及び（株）エコネットの三社共同で参加し、協定を締結。

休日が繁忙のため、他の二社と活動日が合わないため、単独で10月に活動を予定。

トヨタのようにエコカーは取り扱ってはいないが、環境に優しいドイツ車（BMW）を販売している企業であることをPRしたいと考えている。（服部モータース）

・滋賀県中小企業家同友会は、県全体で600社、大津支部では160社の中小企業が加盟。中小企業は大手のように1社で琵琶湖森林づくりパートナー協定を締結することは困難なことから、会として10月に協定を締結する予定。地元の企業が地元の森林を守る方針で取り組みたい。（滋賀県中小企業家同友会）

<質疑等>

○活動参加への動機付けはどのようにされているか。

- ・会報等による広報での案内。作業ばかりではなく、午後からはバーベキュー等の楽しみを組み合わせることで参加者を増やす工夫をしている。(参加企業等)
- ・一日中作業ばかりでは、集中力が散漫になり、安全が保ち難くなるので、作業は午前中の2時間程度にとどめて、午後からは楽しみのメニューを組むのが良いと思う。(森林管理事務所)

○活動にかかる経費(コスト)の負担はどうしているか。

- ・企業等の皆様に最低限考えていただきたいのは、傷害保険の加入である。いきなり、様々な道具をそろえたりするのは大変なので、まずは、森林管理署、森林管理事務所、京都府等に相談していただければ、ヘルメット、腰鋸などの道具は貸し出しができる。活動が軌道になった段階で、必要な用具を揃えたり、現地に資材倉庫等を設置してはどうか。(京都大阪森林管理事務所)
- ・付け加えると、京都府では、技術指導できる講師の登録を行っており、派遣を希望される場合には多少の講師料は必要である。安全に楽しく活動されるためには、必要な経費だと認識していただきたい。(京都林務事務所)

○企業が森林整備活動等を行うメリットはどのようなものがあるか。

- ・社員のコミュニケーション。社会貢献(CSR)。地域づくりに貢献…高齢化している地域での仕事作り。森林づくりは地域づくりの観点が必要。(参加企業等)

○その他フリー発言

- ・各地で活動しているが、企業が民有林で活動を行う場合には、行政の後ろ盾(仲介)がないと活動場所確保さえままならぬ。また、各種法令遵守に必要な指導や地元林業事業体の確保を行うためには、行政の支援が必要である。

現在は、企業が森林整備活動等に参画しやすくなっていると感じているが、各企業等からの発言にもあったように、森林整備活動等をリードしてくれる後継者を育てるのが重要な課題となっている。(サントリー)

- ・国産の木材を使っていく(利用拡大)にはストーリーが必要であり、そのストーリーを理解してもらうためには、皆様方企業の活動は大切なので、継続して活動をお願いする。(京都林務事務所)

- ・間伐に必要性などについて、小学生の年代から教えておく必要があるのではないかと。やはり教科書に、林業の内容が載っていないのが問題である。(参加企業等)

- ・その点については、森林インストラクターや京都所、箕面ふれあいセンターにおいて、学校に赴いて森林教室を実施したり、学校の先生や先生を目指している大学生を対象とした森林環境教育セミナーなども実施してきている。(京都大阪森林管理事務所)

<行政への要望>

- ・今回の企画は、情報交換や交流の場として、非常に有意義なものであるから継続して欲しい。(参加企業等)

第7グループ交流会報告書

(参加者)

日本政策金融公庫京都支店（有田）、京都生活協同組合（高橋）、ブリティッシュ・アメリカン・タバコ・ジャパン（吉田）、日本観光開発（南）、近畿環境保全（藤田）、伊藤園（立本）、滋賀県（繁田）、京都大阪森林管理事務所（片山）

(意見等)

<活動実施企業の活動実施状況>

・日本観光開発では、滋賀県が推進している「琵琶湖森林づくりパートナー」を利用して、湖南市で森林整備を行う予定。11月に協定を締結し、今年度内に2回活動したい。活動内容は、基調講演のキリンビール滋賀工場や村田製作所のような大規模な活動ではなく、ベーシックな活動を考えており、年2回から4回の活動をしたい。協定場所の選定にあたっては、事業所の近隣を中心に選考し、トイレやレクリエーション施設も充実していた湖南市を選定した。活動の指導は、地元の森林組合に謝礼を払って指導してもらう予定。このことで、地域との連携もでき、活動に継続性ができたと考えている。（日本観光開発）

・近畿環境保全でも滋賀県が推進している「琵琶湖森林づくりパートナー」を利用して、平成21年10月に協定を締結した。県内で4番目の協定となった。株式会社エコネット、株式会社服部モータースと当事業所の3社が共同で協定を結んだ。場所は、湖南市の森林で、面積は50ha程度。昨年11月に現地で20名程度が参加し、下刈りなどの活動を行った（事業所によっては、休日に休めない企業もあるので、2社が合同で活動することはあるが、3社となると日程調整が難しい。）。参加することで、地域との交流や環境意識が高まるように感じた。また、指導者がよかったこともあるが、ネイチャーゲーム（①森の声を絵に描く、②森と人との関係、③大きな葉と小さな葉を見つける、④木の声を聞く）で、とても楽しめ、より森林を知ることができた。今後も年2回程度は活動したいと考えている。（近畿環境保全）

・京都生活協同組合は、「京都モデルフォレスト運動」に参加し、森林づくり活動を亀岡「旭の森」で行っている。地元自治会等と協働して亀岡市旭町の森林整備を行う森林利用保全協定を平成22年1月締結した。亀岡「旭の森」では、森のデザインシートを作成し、マツ林の再生（マツタケ山再生）を目指している。第2回の活動では、頂上への作業道を整備した。年間5回程度の活動を計画している。（京都生活協同組合）

・ブリティッシュ・アメリカンでは、社会貢献活動の一環として、職員が他のボランティア活動に参加することへの支援を考えていたが、ボランティア活動に積極的な職員はあまり多くない。京都の西山で森林整備協定を締結（面積は、0.5ha）している。森林整備活動を通して、森林整備の喜びを職員に浸透させたいので、ご指導ご協力をお願いします。（ブリティッシュ・アメリカン・タバコ・ジャパン）

・伊藤園では、現在、森林整備協定を結んだ森林づくりは行っていないが、最近の社会貢献活動として、今年、大阪の市街地から見渡せる生駒山系を屏風に見立て、府民と協働で、ヤマザクラなどの花木や紅葉の美しい樹木を植樹した。6月から8月まで『おっ茶で日本をうつしく。』キャンペーンを展開し、「お〜いお茶」全飲料商品の売上の一部を貴重な自然環境の保全活動などに寄付している。(伊藤園)

<質疑等>

○森林整備への参加者募集など、活動全般を含め工夫されていることはあるか。

・生協の組合員に対しても募集活動を行っている。参加者には、簡単なアンケートに回答してもらい、活動の参考にしている。参加者には、野外活動の好きな人、活動経験のある人が多い。また、初めての人には、地球環境に興味のある人(自分も貢献したい人)のようである。イベント的な活動も取り入れながら参加者が飽きないよう取り組むことが大切。(京都生活協同組合)

・近畿環境保全では、日曜しか休みがなく、休みの日に活動すると個々の休日の楽しみを取ってしまうので、職員が参加してよかったと思う活動にしようと考えている。目標を立て、がんばろうという気持ちを持たせる。参加者が楽しければ、他の職員も集まると考える。(近畿環境保全)

<まとめ>

本日、いろいろな企業の方の意見が聞けたことが財産である。関西は、琵琶湖を水瓶として、多くの人が生活している。今後も行政機関や民間企業が協力して森林づくりをすることが大切と考える。(伊藤園)